

< 口腔の役割 >

MAYU (まゆ)

織都の町、桐生を低速で走る低速電動バスMAYU (まゆ) は今年で生誕 10 周年になります。桐生発祥のMAYUは「桐生が岡公園」や古民家「四辻の齋嘉」、市重要文化財「有鄰館」、市内の「七福神」を巡るコースなど主に観光客や市民の周遊に利用されています。

この開放型 10 人乗り電動バスは最高時速 19 k m、ゆっくりした速度で走ることから町の風景や自然、季節を楽しむことができます。そしてこの環境にやさしいMAYUの外観を最も特徴づけるのは 8 本のタイヤです。乗車した際の何とも言えない驚くほど静かでスムーズな乗り心地の良さは、どうやらここに秘密があるようです。

8 本のタイヤはそれぞれ独立したモーターで回転し、さらにそれぞれが独立して路面の凹凸の衝撃を吸収する仕組み (サスペンション) を持っています。この 8 輪駆動のシステムによって無駄なく力が地面に伝わるため、凸凹の多い道路や坂道でも空転しにくく非常に安定した走行性能により快適で優れた乗り心地を実現しています。

ところで「独立した 8 本」といえば実はヒトの歯もこのMAYUに負けじと、同様の性能を持っているのです。前歯からいちばん後ろの親知らずまで含めると大人の歯は通常上下左右 8 本ずつあります。歯肉や顎の骨の中に隠れることの多い 8 番目の親知らずは役に立つことが少ないですが、それでもそれぞれ歯は独立して機能しています。

食事の楽しみといえばまず「味覚」が思い浮かびます。それ以外の感覚では「歯ごたえ」「舌触り」「のどごし」などの「食感」があげられます。ヒトは視覚、嗅覚、聴覚、触覚、味覚の五感で食事を楽しみますが、食べ物を口に入れる前に視覚と嗅覚、つまり目と鼻で「おいしそう」と感じます。口に入れてからは咀嚼することで触覚により舌触りや歯ごたえ、温度を感じ、味覚、嗅覚により味わいます。

歯には「歯根膜（しこんまく）」といって歯ごたえを識別するセンサーがあります。舌や口腔粘膜にも食感を感じるセンサーがありますが、特に歯根膜は敏感で硬すぎる物は「食べるな危険」と、食べ物が安全かどうかの判断を瞬時に
行い、硬さ、柔らかさ、歯ごたえの食感を感じ、食事を楽しむことが出来ま
す。そして食べ物の硬さによって咬む力を調整しながら顎の骨に伝わる衝撃を
吸収し、脳に食べ物の情報を発信します。さらに「ポリポリ」「カリカリ」と
いった咬む音を聴覚、すなわち耳で楽しむことが出来るのもそれぞれが独立し
た歯の歯根膜のサスペンションのシステムによるものなのです。

食事を楽しむことは五感を総動員して脳を活性化することになります。それ
には日ごろから歯を大切にし、もしむし歯や歯周病でやむを得ず歯が欠損した場
合は、早期に義歯などで失った歯を補わなければいけません。安全に走行する
MAYU同様、我々の歯も日々の手入れと定期的なメンテナンスがかかせない
でしょう。

(取材協力：株式会社 桐生再生 <http://www.saisei.kiryu.jp/>)



歯根膜



低速電動バス MAYU (まゆ)



MAYUの精密なサスペンション

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

